

[参考事項]

成果情報名：秋田県のネギほ場におけるネギハモグリバエB系統の発生状況および有効薬剤

研究機関名 農業試験場 生産環境部 病害虫担当
担当者 蛭川泰成・高橋良知

[要約]

秋田県のネギほ場において、多数の幼虫が葉を集中的に加害する特徴をもつ、ネギハモグリバエB系統の発生が広域で確認された。また、B系統が優占するほ場における4年間の薬剤効果試験により、複数の有効薬剤を確認した。

[キーワード]

ネギ・ネギハモグリバエB系統・発生状況・有効薬剤

[普及対象範囲]

県内全域

[ねらい]

秋田県のネギほ場において、従来から発生していたネギハモグリバエA系統（以下、A系統）に対して、多数の幼虫が葉を集中的に加害する特徴を有するネギハモグリバエB系統（以下、B系統）の発生が2020年に確認されたため、県内の発生状況を調査した。また、A系統、B系統が混発し、B系統が優占するほ場（以下、B系統優占ほ場）において防除効果の高い薬剤の検索を行った。

[成果の内容及び特徴]

- 1 A系統とB系統は、遺伝子診断か食害痕の特徴（図1）を基にして診断した。その結果、県内24カ所調査の内、16カ所でB系統の発生が確認された（図2）。
- 2 B系統優占ほ場において、プロフレアSC、アグリメック、ダブルシューターSE、ダントツ水溶剤、パダンSG水溶剤、ベネビアOD、リーフガード顆粒水和剤、グレーシア乳剤、ディアナSCはB系統に対して防除効果が高かった（図3）。一方、ファインセーブフロアブルは、防除効果が低かった。
- 3 以上のことから、B系統優占ほ場における薬剤効果試験から、複数の有効薬剤を確認した。

[成果の活用上の留意点]

- 1 薬剤効果試験は、秋田県農業試験場内ほ場で実施した。薬剤散布はシンダイン5,000倍を加用し、背負い式バッテリー噴霧器（丸山製作所製MSB1500Li）で行った。
- 2 薬剤抵抗性の発達を避けるために、同一RACコードの薬剤を連用しない。
- 3 B系統に対して防除効果が高かった薬剤の多くは、アザミウマ類との同時防除にも使用できる。ファインセーブフロアブルは、B系統に対して効果が低いものの、アザミウマ類に対する防除効果は高い。

[具体的なデータ等]

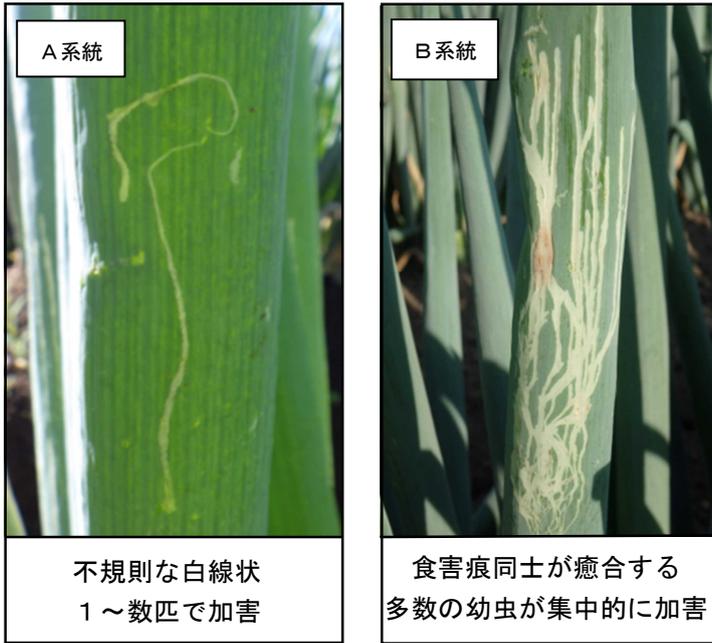


図1 A系統とB系統の食害痕

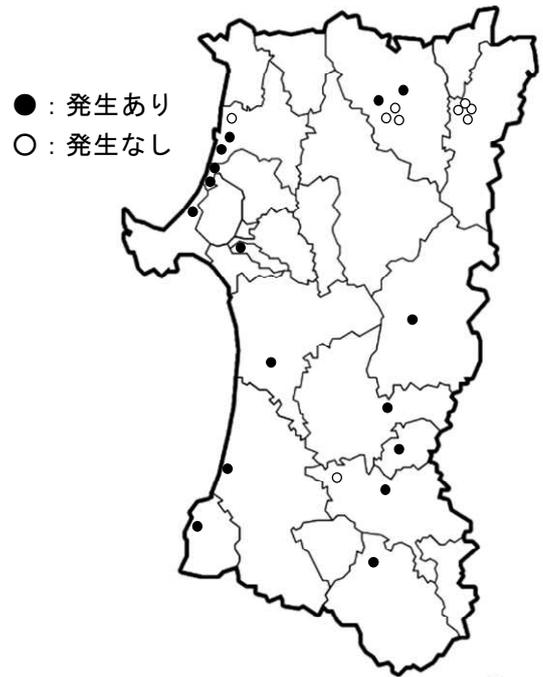


図2 B系統の発生状況

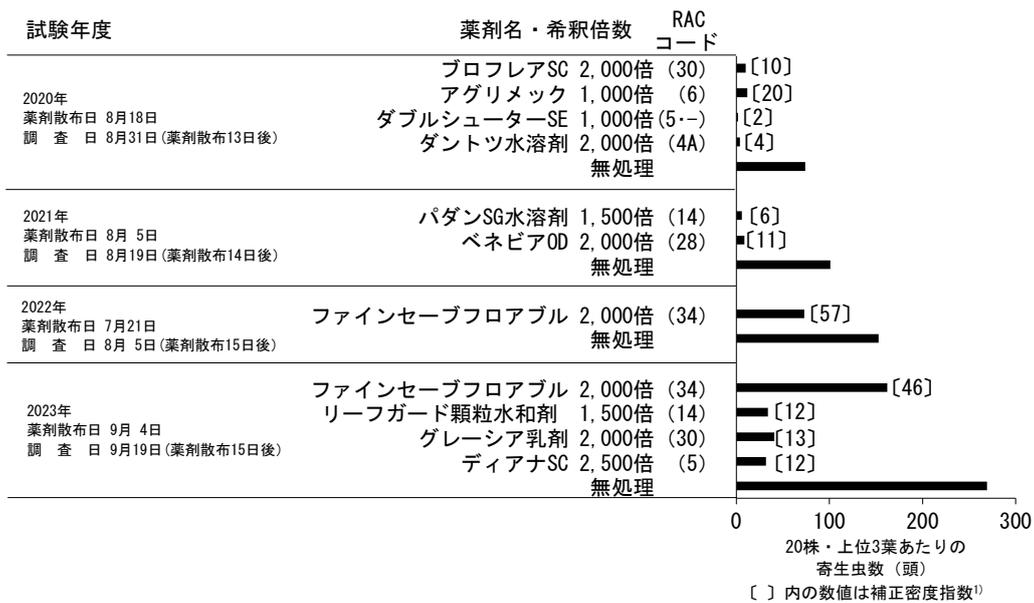


図3 B系統優占ほ場における薬剤の防除効果

$$\text{補正密度指数}^{1)} = \frac{\text{薬剤散布区の所定日数後の個体数}}{\text{薬剤散布区の試験開始前の個体数}} \times \frac{\text{薬剤無散布区の試験開始前の個体数}}{\text{薬剤無散布区の所定日数後の個体数}} \times 100$$

[その他]

研究課題名：先端技術を活用した新たな園芸作物病虫害防除技術の開発

研究期間：令和2年度～令和5年度

予算区分：県単

掲載誌等：なし